

# 内定者 の 声

平成 30 年度入省予定  
環境省総合職自然系

# はじめに

この度は、内定者の声を手に取ってくださりありがとうございます！

この冊子は平成 30 年度の総合職自然系職員(通称『自然保護官』『レンジャー』)として内定した 7 名が協力して作成したものです。そもそもレンジャーとはどういう職業なのかに始まり、私たちがなぜレンジャーを志望するに至ったのか、そしてどのような勉強や対策を行ってきたのかなど 7 名それぞれの奮闘記がここに記されています。

環境省の受験を考えている方、興味はあるけどまだ迷っている方、たまたまこの冊子を手にとった方、全ての方がこの冊子を通して環境省について知るきっかけとなれば幸いです。そして、私たちがそうであったように、この奮闘記が就活を前に不安を抱える皆さんの背中を押す一助となれば光栄です。

いつの日か皆さんと一緒に日本の豊かな自然環境に関われる日を楽しみにしています！

## ※環境省の職員

総合職と一般職があり、事務系、理工系、自然系の 3 つに分かれています。『レンジャー』と呼ばれるのは、自然系の総合職と一般職職員です。

## ※レンジャーの仕事

通称「自然保護官」と呼ばれているように、「自然保護」を仕事としています。

一口に「自然保護」と言ってもその業務は多岐に渡ります。具体的には、国立公園の管理、外来種対策や野生鳥獣の保護、ペット動物の愛護、エコツーリズムといった自然とのふれあいの推進などです。このような業務を通じて、自然系職員は貴重で豊かな自然を守るだけでなく、時には利用の促進を通して自然と人をつなぐ役目を果たします。

また、自然系職員の業務には、霞ヶ関にある本省での業務だけでなく、各地方環境事務所や自然保護官事務所に赴任し、地域の方々や他の行政機関と協力しながら現場の第一線で活動することが大きな特徴です。他の行政機関や海外へ出向する業務も行います。

## ※この冊子について□

この冊子は平成 30 年度の総合職自然系内定者によって作成されました。各職種の詳しい業務内容やお知らせについては環境省のホームページをご覧ください。□

『環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/>』 □

『環境省総合職自然系ページ [http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat\\_g3/index.html](http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/index.html)』

また、この冊子の記載はあくまでも個人の意見です。これを参考に自分にあった勉強方法や対策を見つけていただければと、内定者一同願っております。

# 目次

はじめに	1
目次	2
内定へ向けての予備知識	3
利用した参考書・資料一覧	9
内定への道	
Aさんの場合	12
Bさんの場合	17
Cさんの場合	22
Dさんの場合	27
Eさんの場合	32
Fさんの場合	36
Gさんの場合	41
内定者ってどんな人たち？	47
環境省の印象	49

## 内定へ向けての予備知識

※平成29年度国家公務員総合職試験及び内定までの流れ※ ※1

日程	内容	備考
2/1(水)	受験案内等 HP に掲載開始	
3/31(金) ~4/10(月)	申込受付期間 (インターネット)	
4/30(日)	第1次試験日 午前：専門多岐選択式 午後：基礎能力	服装自由 (私服歓迎) 翌日 (5/1) に HP に解答掲載
5/12(金)	第1次試験合格者発表日 接触禁止期間開始※2	インターネット掲載、合格通知書 (二次試験の日時・会場の通知)
5/28(日)	第2次試験日 (筆記) 午前：専門記述式 午後：政策論文 (大卒のみ)	服装自由 (私服歓迎) 人物試験の日時・会場の通知 (大卒：手渡し 院卒：ハガキ)
5/30(火) ~6/16(金)	第2次試験 大卒者試験：人物試験	日時は原則変更不可 提出物に注意！ スーツ推奨 (クールビズ)
6/9(金) ~6/16(金)	第2次試験 院卒者試験：政策課題討議試験 ：人物試験	同上
6/30(金)	最終合格者発表	インターネット掲載、合格通知書
7/5(水) ~7/7(金)	官庁訪問開始・第1クール	スーツ推奨 (クールビズ) 1日目：先着順 2日目以降：メールにて要予約
7/10(月) ~12(水)	官庁訪問・第2クール	指定された日時に訪問
7/19(水)	内々定解禁	電話にて通知
10/2(月)	最終面接、内定式	夜に懇親会あり 自然系は初めて内定者と面会

※1 平成30年度日程は国家公務員試験採用情報ナビでご確認ください。

(<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>)

※2 接触禁止期間とは、人事院が主催する官庁合同業務説明会を除き、受験者と各府省等との一切の接触 (電話・メール含む) が禁止される期間のことです。つまり、OB/OG訪問等はその前に行わなければなりません。

## \* 試験区分について \*

環境省自然系では平成27年度より、森林・自然環境区分に加えて化学・生物・薬学区分から採用されるようになりました。平成30年度内定者7名の内訳は、森林・自然環境区分6名、化学・生物・薬学区分1名です。人数の偏りから化学・生物・薬学区分のアドバイスが少なくなるかと存じますが、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。総合職では試験区分による業務内容の違いはありません。

## \* 森林・自然環境区分の各試験の概要 \*

### □ 基礎能力試験（配点 2/15）

- ・ 試験内容は知能分野（文章理解、判断・数的推理、資料解釈）と知識分野（自然・人文・社会、時事）で、全て多肢選択式です。
- ・ 院卒区分は知能分野 24 題＋知識分野 6 題の計 30 題で制限時間は 2 時間 20 分、大卒区分は知能分野 27 題＋知識分野 13 題の計 40 題で制限時間は 3 時間です。

### □ 専門多肢選択式試験（配点 3/15）

- ・ 必須問題（森林・自然環境に関する基礎）と選択問題 3 科目 27 題の計 40 題、制限時間は 3 時間 30 分です。時間は有り余るので途中退出する人が多いです。
- ・ 選択問題は以下の科目から 3 つを解答時に選びます。

1. 森林環境科学、2. 森林資源科学、3. 森林生物生産科学、4. 砂防学基礎、5. 砂防工学、6. 流域管理、7. 造園学原論・造園材料、8. 造園計画（自然公園）、9. 造園計画（都市公園）、10. 木材特性・木質構造、11. 木材加工・材質改良、12. 木材成分利用
---

### □ 専門記述式試験（配点 5/15）

- ・ 1. 森林科学に関する基礎、2. 国土保全に関する基礎、3. 自然環境・公園緑地に関する基礎、4. 木材等林産物に関する基礎の 4 科目から 1 科目を解答時に選びます。さらに 1 科目 3 題あるうち、任意の 2 題を解答します。
- ・ 解答用紙は罫線＋うっすらマス目のある A3 くらいの用紙を 1 題につき 1 枚（両面）使用します。

### □ 人物試験（配点 3/15）

- ・ 面接官 3 人に対して受験者 1 人のいわゆる面接試験で、時間は 1 人 20 分程度です。
- ・ ネットからダウンロードして記入した面接カードを当日提出し、基本的にはその内容に沿って質問されます。

□ 政策課題討議試験（院卒） / 政策論文試験（大卒）（配点 2/15）

☞ 政策課題討議試験は、6人1組（欠席者が居れば4,5人）で与えられた政策課題について討議を行い、試験官3人がその様子を評価する試験です。

- ・ 課題の内容は試験区分に関わらず、あらゆる政策分野から出題されます。
- ・ 試験の流れは以下の通りです。

- 1) 課題文と関連資料3つほど（1つは英語資料）が配布されます。
- 2) 資料を25分間で読み込み、自分の意見をA4・1枚にまとめます。まとめ方は文章のみでも図を用いても良く、自由です。
- 3) その後ディスカッションルームへ移動し、各受験者のレジユメのコピーが配られ、意見を1人3分で発表していきます。
- 4) 全員の発表の終了後、30分間の討議に移ります。討議では必ずしも一つの解を出す必要はありませんが、制限時間内に出来るだけ一定方向の意見にまとめることが求められます。司会等の役割分担を決めるかどうかは各グループに任されます。
- 5) 討議終了後、討議を踏まえた自分の意見を1人2分で発表して終了です。

\* 同じグループになるのはおそらく同じ試験区分の人たちです。今後長い付き合いになる可能性も踏まえて、積極的にコミュニケーションを図りましょう！

☞ 政策論文試験は、同様の課題と資料が与えられ、小論文形式で解答するものです。制限時間は2時間です。

☞ 政策課題討議試験(院卒)の過去問は請求できませんが、政策論文試験(大卒)の過去問は請求することができます。 □

□ 外部英語試験

- ・ 平成27年度から新たに導入された試験です。過去5年以内に受験したTOFEL、TOEIC、IELTS、英検での取得点数に応じて、試験の総得点に15点または25点が加算されます。美味しい点数になること間違いなしです。ぜひ早めのご準備を！
- ・ 受験申込の時点で点数を申告し（ネット）、2次試験の人物試験・政策課題討議試験の日に証明書類を提出します。最終合格した場合には各府省等にも取得点数が伝わるそうです。

## \*化学・生物・薬学区分の各試験の概要\*

基礎能力試験、人物試験、政策課題討議試験(院卒)および政策論文試験(大卒)、外部 英語試験については、森林・自然環境区分と共通です。各試験の配点も森林・自然環境区分と同様です。

### □ 専門記述式試験 (配点 5/15)

- ・ 必須問題(数学・物理・化学・生物に関する基礎)10題と選択問題 30題の計 40題、制限時間は 3 時間 30 分です。計算を要する問題も多いので、解答にかかる時間はほかの区分と比較すると多少長めです。それでも、時間に余裕はあると思います。
- ・ 選択問題は以下の中から 5 科目又は 6 科目を選択し、任意の 30 題を解答します。 □

1. 数学・物理、2. 基礎物理化学・基礎無機化学、3. 物理化学・無機化学、4. 有機化学、5. 工業化学・化学工学、6. 分析化学・薬化学、7. 薬理学、8. 薬剤学・衛生化学、9. 食品学、10. 土壤肥料学・環境科学・農薬、11. 生化学・分子生物学、12. 応用微生物学・生物工学、13. 発生生物学・生理学、14. 細胞生物学(形態学を含む。)・放射線生物学、15. 遺伝学・進化学、16. 生態学(動物行動学を含む。)・系統分類学

### □ 専門記述式試験(配点 5/15)□

- ・ 以下の科目から 19 題出題され、任意の 2 題を解答時に選びます(同じ科目から 2 題選択可)。
- ・ 解答用紙は罫線のある A4 くらいの用紙を 1 題につき 4 枚(片面)使用します。

物理化学②、無機化学①、有機化学①、分析化学①、化学工学①、薬化学①、薬理学①、薬剤学①、食品学①、土壤肥料学①、生化学①、分子生物学・生物工学①、応用微生物学①、発生生物学①、生理学①、細胞生物学(形態学を含む。)①、遺伝学①、生態学(動物行動学を含む。)①

その他試験の詳細は、国家公務員試験採用情報 NAVI 等で確認してください。

## \* 官庁訪問について \*

### □ 官庁訪問とは？

- ・ 官庁訪問とは、各省庁に採用してもらうためのいわゆる『採用面接』です。総合職試験に最終合格すると、3年間有効の合格者名簿に名前が載ることになりますが、合格＝採用ではなく、実際の採用数は試験合格者数を大幅に下回っています。従って、官庁訪問こそが志望府省庁から採用されるための最後にして最大の難関とも言えます。
- ・ 官庁訪問では複数の志望官庁を訪問することになると思います。原則として第一志望の官庁を1日目に訪問するのがベストですが、2日目以降に訪問したからといって採用されないということは（少なくとも環境省自然系では）全くありません。今年の内定者の中にも2日目以降に環境省を訪問した人もいますので、安心してください。
- ・ 官庁訪問の開始日については第二次試験の際に配布される『第2次試験受験者の皆様へ』に書いてあります。総合職の官庁訪問は第5タームまであります。原則として、1タームにつき1つの省庁への訪問は1回で、合格すれば次のタームの官庁訪問も行えるという理解でいいと思います。次のタームの訪問日は省庁側から指定される場合と、こちらが選べる場合があります。これは省庁によって異なります。そのため、自身が訪問する省庁は指定されるのか、選べるのか OBOG 等に尋ねて、どの省庁を何日目に訪問するか、事前に計画しておきましょう。また、遠方の人はかなり長期戦(約2週間)になるため、ホテルや飛行機の手配など、自身の費用と照らし合わせて早めに予約しておくといいです。 □

### □ 環境省の官庁訪問について

※ 面接の形式や回数は各省庁・採用区分によって大きく異なります。

- ・ 環境省の自然系総合職は基本的に個人面接のみで、平成29年度は第1ターム、第2タームの計2日訪問しました。もちろん第1タームで落ちればそこで終了です。
- ・ 第1タームは、初日のみ先着順、2日目以降は事前予約した上で面接を受けました。定員は1日に20名程で、午前・午後①・午後②の3つのグループに分かれて面接を受けました。初日は人数が多いので、集合時間直前に来ると午後②になってしまうことがあります。採用のされやすさには全く影響しないのでご安心ください。
- ・ 第2タームは、第1タームの結果通知メールにより指定された日時に訪問します。
- ・ 面接では人物試験と同様に、面接カードを提出した上で面接を行います。各省庁の面接カードは、2次試験後ぐらいからHPに掲載されます。

□ 環境省自然系総合職の平成 29 年度官庁訪問スケジュール

日程	内容
7/5(水) ~7/7(金)	第 1 ターム ☞ 自然系職員 1~2 人と 20~30 分の面接×3 回
7/10(月) ~12(水)	第 2 ターム ☞ 自然環境局の幹部職員 4 人と 20 分の面接×1 回
7/19(水)	内々定解禁 ☞ 電話にて結果が通知される

上記の内容は全て平成 29 年度の情報です。最新の情報や詳細については人事院や環境省の採用ホームページ等や、必要に応じて採用担当者に確認してください。

# 利用した参考書・資料一覧

多くの人が利用したものを赤字にしています。

## 【基礎能力試験】

### ◎過去問

- ・総合職試験過去問<人事院・先輩より入手>
- ・国家総合職教養試験 過去問 500 <実務教育出版>

### ◎知能分野

- ・新スーパー過去問ゼミ シリーズ <実務教育出版>  
ー数的推理、判断推理、文章理解・資料解釈
- ・畑中敦子の判断推理 TheBest+(ザ・ベストプラス) <エクシア出版>
- ・畑中敦子の数的推理 TheBest+(ザ・ベストプラス) <エクシア出版>
- ・地方上級・市役所・国家一般職 公務員試験 スピード解説(数的推理,図形・空間把握,資料解釈,文章理解) <実務教育出版>

### ◎知識分野

- ・速攻の時事 (平成 29 年度試験完全対応) <実務教育出版>
- ・速攻の時事 実践トレーニング編 (平成 29 年度試験完全対応) <実務教育出版>

## 【専門試験】(森林・自然環境区分)

### ◎過去問

- ・総合職試験過去問 <人事院・先輩より入手>

### ◎必須問題

- ・ニューステージ地学図表 <浜島書店>
- ・高等学校用 森林科学 <実務出版>
- ・生物事典 <旺文>
- ・葉っぱで見わけ五感で楽しむ 樹木図鑑 <ナツメ社>
- ・新しい高校地学の教科書 <講談社>

### ◎科目 1～3：森林系

- ・森林・林業白書 <http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/>
- ・森林・林業実務必携 <朝倉書店>
- ・ニューフォレストーズ・ガイド[林業入門] <全林協編>
- ・各種法条文 <http://www.e-gov.go.jp/index.html>
- ・森林総合監理士基本テキスト (うち第 2 章：森づくりの理念と森林施業)  
[http://www.rinya.maff.go.jp/j/ken\\_sidou/forester/attach/pdf/index-4.pdf](http://www.rinya.maff.go.jp/j/ken_sidou/forester/attach/pdf/index-4.pdf)
- ・森のバランス <東海大学出版会>
- ・授業ノート

◎ 科目 7～9：造園系

- ・環境白書 <http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>
- ・各種法条文 <http://www.e-gov.go.jp/index.html>
- ・環境省 HP <http://www.env.go.jp/index.html>
- ・EIC ネット <http://www.eic.or.jp/>
- ・生物多様性・Biodiversity・＜環境省＞ <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/index.html>

### 【専門試験】(化学・生物・薬学区分)□

◎過去問□

- ・総合職試験過去問 ＜人事院・先輩から入手したもの＞

◎科目 9:食品学□

- ・食品微生物学 改訂版 ＜培風館＞
- ・食品と微生物 ＜光琳＞
- ・食品加工プロセス ＜森北出版＞
- ・食品加工学 ＜共立出版＞

◎科目 12:応用微生物学・生物工学

- ・応用微生物学 ＜文永堂＞
- ・応用微生物学 ＜培風館＞

◎科目 14: 細胞生物学・放射線学

- ・ハーパー生化学 ＜丸善出版＞
- ・クーパー細胞生物学 ＜東京化学同人＞

◎科目 15:遺伝学・進化学

- ・遺伝学キーノート ＜springer＞

◎科目 16:生態学・系統分類学

- ・種間関係の生物学 ＜種生物学会＞
- ・自然保護の生態学 ＜培風館＞
- ・ゼロからわかる生態学 ＜共立出版＞
- ・生態学 ＜京都大学学術出版会＞
- ・分子生物学イラストレイテッド ＜羊土社＞

### 【面接】

- ・ **各省庁 HP**
- ・ 説明会やインターンで配布されたパンフレット・資料
- ・ 就職試験 これだけ覚える 面接 エントリーシート<成美堂出版>
- ・ 面接 自己 PR・志望動機[完全版 ] <高橋書店>
- ・ 短所を言えたら内定が出る<星雲社>

### 【専門記述、政策論文試験】

- ・ 現代用語の基礎知識<自由国民社>
- ・ 文藝春秋オピニオン 2017 年の論点<文藝春秋>

### 【その他】

- ・ **内定者の声**
- ・ 公務員試験 受かる勉強法 落ちる勉強法<洋泉社>

今回記したのは、平成 30 年度内定者 7 人分の参考書・資料一覧です。ここに載っていない試験区分や資料が少ない試験区分は他年度の内定者の声に載っている場合がありますので、ぜひそちらも参考にしてみてください！

## 内定への道＜Aさんの場合＞

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部4年・女性・22歳

【併願先】一般職（林学）、民間企業（建設コンサル）など

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ等・4回

【試験区分】森林自然環境（大卒試験） 【専攻科目】地域計画学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③森林生物生産科学

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1 及び No.2）

### \* 志望動機 \*

祖母の家が山深い集落にあり、幼い頃からその周りで遊ぶうちに、山林などの自然環境に興味を持つようになりました。そのうち、本やテレビで森林や自然環境についての情報を集めるようになり、人の生活と環境保全・自然保護が対立要素であるような構図になってしまっていることを知りました。

山林や自然環境には、様々な機能や役割がありますが、それは山林から離れた都市部に住む人の生活にも関わるものであり、人間が文明を保つためには欠かせません。

そして、その機能を今後も長期的に保っていくためには、人間の適切な手入れが必要です。

しかし、日本では、生活の場が山野から離れてしまったため、多くの山野は放棄されてしまい、その機能を保つことは難しくなっています。

環境保全・自然保護というと人間が立ち入りできないように広範な地域(区域)を仕切り、手付かずの自然、ありのままの自然を残すことのように考えられがちですが、そうではなく、人々が自然を活用することで生活を営んでいけるような仕組みをつくり、支出(投資)と収益がバランスよく循環し、経済的にある程度自立できるような緑地経営を考えたいです。

立場や考え方に違いがあっても、人類の生活の持続には山林の発展と有効利用が必要不可欠であるということは全員に共通であり、山野に暮らす人だけでなく都市部に暮らす人も含め、全ての人が自然を保全しよう、管理しよう、と思えるように、自然の活用法を広げたいと思い、環境省を志望しました。

### \* 勉強方法 \*

私は短期集中型でした。参考書は購入していましたが、試験勉強を本格的に始めたのは一次試験の約2ヶ月前でした。ただ、試験までの2ヶ月間は民間企業の就活以外に特に用事が無かったので、毎日缶詰になって勉強することが出来ました。

予備校は利用しませんでした。

#### 【外部英語試験】

利用していません。時間に余裕があるなら受験しておくことを勧めます。受験しておけば、一次試験受験前後に「自分には英語の加点が無いのだぞ」というプレッシャーを感じずに済みます。

#### 【1次：基礎能力試験】

まず、過去問6年分を時間を計ってひと通り解きました。次に、購入してあった「数的推理」「図形・空間把握」「資料解釈」の参考書をそれぞれ3周ずつしました。英文読解は苦手意識があったので、「文章理解」の参考書に記載されていた"注目すべき単語"みたいな一覧を暗記しました。

現代文読解は得意なため、知識分野は時間が無かったため過去問を解いただけです。時事問題は特に勉強はしませんでした。普段からニュースは見っていました。

#### 【1次：専門多肢選択式試験】

過去問1年分を時間を計って解いた後、間違えた問題はもちろん正解した問題についても、選択肢を一つ一つ、どの部分は合っていてどの部分は間違っているのか調べ、ノートにまとめました。この作業を過去問4年分行いました。

試験日まで時間が無かったため、どの問題を選択するかは特に悩むことなく最初の3科目だけを勉強しました。

内容は専門ではありませんでしたが、かと言って全くの専門外という訳でもなく、大学の授業内容が少しかすったりかすらなかつたり...といった具合でした。(地学は高校受験で勉強した内容を思い出す感じ。生物学は大学受験で勉強した内容を思い出す感じ。樹木の種類や特徴、緑地土壌学、樹木医学は大学で受けた授業を必死に思い出す感じ。他は初見でした)

なるべく書籍を使って調べましたが、載っていない場合はインターネットも利用しました。林業用機械を作っている会社のHPや林業に携わる人のブログ等も参考にしていました。

最初の内は1年分ノートにまとめるのに1週間かかりましたが、次第に覚えのある選択肢が増え始め、スムーズに進むようになりました。それでも1年分に4日間はかかっていたので、毎日かなり焦っていました。

試験当日は、問題を3周程解き、その都度解答を変えたり変えなかつたりしていました。1ヶ所でも間違えていたら合格出来なかった席次でしたので、皆さんも最後まで諦めずに考え抜いて下さい。

## 【2次：専門記述式試験】

1次試験に合格していると思っていなかったため、1次試験合格発表後に慌てて準備を始めました。

過去問4年分の科目1のみを2・3回練習しました。添削は両親にお願いしました。

1次試験から少し時間がたっていたので、1次試験用にまとめたノートをもう一度覚え直しました。

## 【2次：政策論文試験】

同じ研究室に国家公務員試験を受験している人がおり、政策論文の例題とその解答解説を見せてくれたので、それを参考に4・5回練習しました。添削は両親にお願いしました。

また、東京都庁を受験した時に制限時間内に書ききる練習はしてあったので、本番は時間に余裕を持って書き終わることが出来たと思います。

## 【2次：人物試験】

専門記述と政策論文の試験日から面接日まで10日以上あったので、慌てずに準備を始めることが出来ました。

面接日の一週間前から3回程度、大学のキャリアサポート室で面接の練習をしました。ノックの回数すら覚えていなかったなので、練習しておいて良かったです。

面接カードの添削は大学のキャリアサポート室と両親にお願いしました。自筆での清書を面接日前夜に行ったのですが、どうしても字を書き間違えてしまい、深夜に半泣きになりながら書くことになってしまいました。時間に十分余裕を持って清書を始めることを強くお勧めします。

もともと面接に対して苦手意識がほとんど無かったのと、民間企業での就活で何回か面接を経験していたため、本番ではあまり緊張すること無く受け答えが出来ました。ほとんど面接カードに沿った質問内容だったと思います。

当日は、時間に余裕を持って試験会場に向かったのですが、道に迷ってしまったため到着がギリギリになってしまつてとても焦りました。もし余裕があるなら、試験日前に一度試験会場までの道順を確認しておくとう安心です。

## 【官庁訪問】

私は最初、他省庁を第一志望にしていました。そのため、第1クールでは2日目に環境省を訪問しました。それぞれの省庁で面接を重ね、そのフィードバックをいただくうちに自分のやりたいことにより近い職務内容であるのは環境省なのではないかと思い始め、最終的に環境省に決めました。それぞれの説明会に参加していたので、ある程度は職務内容を理解出来ているつもりでしたが、足りていなかったのだと反省しています。

官庁訪問は想像していたほど大変ではありませんでした。待ち時間もあまり長くなく、面接も様々な人と様々なお話をすることが出来て楽しかったです。質問をしっかりと聞いて

て内容を理解し、自分が理解出来ていることと出来ていないことの両方を踏まえた上で、正直に自分の頭に浮かんだ考えを相手に伝えられれば大丈夫でした。私がこれを面接官との会話の最中に、すんなり行うことが出来たのは、普段からゼミでたくさんの質疑応答を行うため、慣れていたのでだと思います。

面接にはA5サイズのノートとペンを持参し、質問されたことや教えていただいたこと等をメモしながら受けました。面接が終わった後に見直し、次の面接に活かしたり、自分の答えを思い出して自分の考えを整理してA4のコピー用紙1枚にまとめました。

官庁訪問への行き帰りは、家が都内にあるので特に困りませんでした。

### **\*アドバイス\***

勉強している間、「勉強方法はこれで正しいのか」「今行っている作業は意味があるのだろうか」「本当はもっと効率的な方法があって自分は今とんでもなく時間を無駄にしているのではないだろうか...」と不安になる人へのアドバイスです。やらないよりは確実に意味があります。というかもやるしか無いです。目の前の問題を一つ一つこなしていく以外に方法はありせんから、不安にのまれてしまわないよう、集中して頑張ってください。

ただ、長い道のりなので、モチベーションを保つのは難しいと思います。なので、1次試験、2次試験といった区切り毎に自分に合った休息をとることも大事だと思います。もしかしたら、その休息の最中に見聞きしたことがその後の試験に活きるかもしれません。

### **\*その他\***

ここまで散々レンジャー内定への道を語っておきながらこんなことを言うのは変かもしれませんが、私はレンジャーになることだけが人生ではないと思います。せっかくの就活という機会ですので、色々な職業の人達の話聞いて、可能なら職場も見て、たくさんの選択肢を知った上でどんな道に進むのか決めるといいと思います。その方が志望動機も書きやすいです(笑)。

**\*スケジュール\***

	2016年 (学部3年)	2017年 (学部4年)
1月		民間企業の就活イベントに参加
2月		民間企業数社のインターンに参加
3月		民間企業の就活が活発になる 2日：霞ヶ関OPゼミに参加。第一志望を総合職に切り替え、本格的に勉強開始。
4月		週一でゼミ 30日：1次試験。間違いなく撃沈したと落ち込む
5月		週一でゼミ 上旬：都庁試験 12日：1次試験合格発表。予想に反し、合格。驚き、焦る 28日：2次試験
6月		週一でゼミ。卒論テーマが固まりだす 8日：2次人物試験 中旬：その他の試験も終え、遊びまわる 30日：最終合格発表。驚きと歓喜
7月		官庁訪問。緊張せず受け答えできた 19日：内々定の電話をいただく。歓喜
8月	植物や造園に興味があったので新宿御苑のインターンに参加。レンジャーという職を知り、関連する企業等の情報を集め始める	南京留学で知り合った学生さんが日本の大学を受験するために来日。家に招待する。試験後、都内を案内
9月		ゼミ合宿
10月	大学の交換留学制度を利用して中国南京へ短期留学	2日：内定をいただく。採用面接で緊張する 週一でゼミ 卒論仮調査を実施
11月	下旬：初めてキャリアサポート室を訪れる。社会や経済の仕組み等を懇切丁寧に説明していただく。一般職を目指すことにする	卒論調査を実施
12月	公務員試験の参考書を購入。目次を眺めたり2-3問解いたりした後放置	卒論調査結果まとめ作業に追われる

## 内定への道＜Bさんの場合＞

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部4年・男性・22歳

【併願先】経産省、農水省、兵庫県、経営・人材コンサル

【参加した説明会・回数】スマートライアル、公務研究セミナー、OB訪問、1次試験後の合同説明会 など各1回ずつ

【試験区分】森林自然環境（大卒試験） 【専攻科目】 森林生理生態学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③森林生物生産科学

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識

### \*志望動機\*

私はまず、国家総合職に行きたいという気持ちが強くありました。理由としては、国として取り組む必要のある規模の大きい問題に関わりたかったこと、法律や制度といった基盤となるものから物事にアプローチしたかったこと、などがありましたが、まとめると「日本の為に働きたい」という思いに尽きます。また大学生活を送る中で、仕事では「専門的にも、職務内容的にも多分野にわたる仕事をして成長したい」とも感じていました。

そうして国家総合職に興味を持ち、少し省庁について調べたとき、環境省に初めに興味を持ちました。環境省が取り組む、環境に関する諸問題や生物多様性の問題などは、まさに国家規模で取り組まないと前に進まない問題であり、とてもやりがいを感じました。また他の省庁に比べ現場勤務も多く、多分野に係われる職種であるとも感じました。さらに説明会やインターンに参加する中で、環境省の職員さんの雰囲気や仕事へのモチベーションも最終的に環境省に決める理由になったと思います。

勿論、自分の大学での専門を考えると選択肢としてあがる省庁は限られてきますが、専門や試験区分に関係なく採用する省庁も意外と多いです。そのため私は官庁訪問中に選択肢が広がり、かなり迷いました。皆さんはそんなことが無いようにしっかり様々な省庁のことを調べておくことをオススメします。

### \*勉強方法\*

【1次：基礎能力試験】

教養は1月からゆっくり進めていきました。5-6割取ることを目標に判断・数的、文章解釈、試料解釈、時事、地学のみ勉強しました。他の社会科目は、範囲がとても広いうえに教養試験40問の1問出るかどうかのレベルなので捨てましたが、専門1次で知識が必要だったため地学は1から勉強しました。

塾で小中高生を教えていることで、英語や理科科目があまり鈍らずに済んだのはとても

助かりました。中学入試の算数は教養の数的などにかなり繋がると思います。

教養は1月からゆっくり進めていきました。

#### 【1次：専門多肢選択式試験】

7-8割取ることを目標に、過去問10年分と白書をメインに勉強しました。過去問で出た問題から、各専門書を調べてまとめることを繰り返しました。白書は2周くらい読みました。直前期に一気に詰め込みたい時は、アプリを使ってその日覚えたことを明日と1週後の自分に問題として創って出し、毎日その問題を朝に解いていました（笑）

#### 【2次：専門記述式試験】

政策論文と共に二次試験対策は1次試験が終わってから始めました。過去問を3-4年分解きました。書く内容のチェックは、専門書や林野庁・環境省のHPを使って出来ましたが、「論理的で簡潔な文章の書き方」は研究室の教授さんに、自分の文章を添削していただき、改善しました。

学部卒は院卒に比べ、論文など文章を書く経験が少ないため、論理的で簡潔な文章を書くために少し練習が必要だと思います。積極的に他人に見てもらうことをお勧めします。私は、文章を書くのが苦手だと対策しながら気づいたので、もっと早くから対策を始めれば良かったかなと思います。

#### 【2次：政策論文試験】

過去問と政策論文のテキストを少し使いました。過去問のお題（テーマ）を10年分程見ると論点は大きく分けて「行政のありかた」「技術の利用方法」など2-3パターンに分かれていたので、そのパターンごとに自分はどのような展開で書くか考えました。3年分くらいは実際に書いてみて、大学のキャリア担当の職員に見てもらいました。添削ついでにその論文に沿って面接対策もしてくれました。政策論文のテキストは政策関係の基礎知識をカバーするために使いました。

#### 【2次：人物試験】

大学の面接講座や、友人や知人に志望動機などを話すことが良い練習になりました。後にダウンロードできる面接カードに沿った質問が主なので、予想される質問に対してしっかり答えを用意しておくことが大切だと思います。

また周りを見ていると公務員志望者には民間就活等の経験が少ない人も多く、案外声の大きさや姿勢などマナーが疎かになっている気もしました。この中では単純に、表情や声の調子も十分アピールポイントになるような気がしました。

民間の面接と比べると、質問も非常にオーソドックスで対策しやすいかなと思います。

## 【官庁訪問】

私は関西の出身だったのですが知り合いの家が東京にあり、しかも霞ヶ関まで30分ほどだったので、2週間弱（他省庁も受けたため）そこから霞ヶ関に通わせて頂きました。

まず環境省には第1ターム初日に訪問しました。受付順で3グループほどに分かれ、面接が行われました。私は2番で受付し1番目のグループだったので午前中には面接がすべて終わりました。待ち時間が長いと同じ受験者の方とゆっくり喋れるという利点もありますが、私は翌日もその次も他省庁を訪問する予定だったので早く終わったのは助かりました。この初日は三回の面接があり、いずれも受験者は一人で面接官の人数は2人→1人→1人でした。私の場合、面接時間はそれぞれ40分→30分→25分くらいでした。私は初めての1対2の面接で、志望動機について深く突っ込まれ、いきなりメンタルをやられました（笑）（今になって思うと、その代わり面接時間が長く、自分について話す時間も多くて良かったかも）正直その時に落ちたと思いましたが、あと2回の面接は何とか切り替えていきました。面接内容は自分で用意する訪問カード（面接カードみたいなもの）に沿って行われ、やはり主に志望動機と自己PRについてよく聞かれました。

第一タームに合格してからの第二タームは、いわゆる幹部面接で、面接官5人に受験者1人でした。聞かれる内容は訪問カードに沿ったものでしたが、初日より、具体的に環境省や国家総合職への適性をみるような質問が多かった気がします。時間は30分ほどでした。迫力のある方々が並んでおられたので、委縮しないように。

環境省の官庁訪問は2日間で終わりましたが、それでもやはりここが一番厳しい壁だったと思います。試験合格までいった人たちが面接で沢山落ちました。こんなことを書くのも申し訳ないですが、やはり最後は面接、つまり自分の志望動機や「思い」で決まるということのをこれからの受験者の方は頭に入れておいて欲しいです。

あと時間があるならば是非他の省庁も受けるべきだと思います。私は他の省庁の訪問で、環境省で環境問題対策について話す内容のヒントを得られたりもしました。また官庁訪問のなかで、その省庁の業務や魅力を伝えようとPRしてくれる省庁もありました。官庁訪問だけを切り取っても、とても勉強になる経験が出来たので、是非他省庁もみてみて下さい。

## **\*アドバイス\***

### 学歴について

もし「有名大ばかりのイメージの国家総合職は自分の能力・学力では無理だろう」と考えている人がいたら読んでもらいたいです。私の大学は決して有名な大学などではなく、ここ数年で国家総合に行った人は1人もいないような大学でした。だから最初は国総なんて狙うだけ無駄じゃないかとも思いました。しかし他大学の先輩が国家総合職について早くに教えてくれ、勉強すれば十分チャンスがあると背中を押してくれたので、受験する決心をしました。

終わってみると誰にでもチャンスがあると本当に思います。学力とか心配することがあっても、少し「周りより早めから」対策をすれば大丈夫です。ただ情報は大切なので積極的に説明会やインターンに行くようにしましょう。そして一緒に受ける友達が出来れば、その後も一緒に試験対策できると思います。

「本当に情熱があるなら、能力とかは関係ない。どれだけ頭が良くても情熱がないと人に伝わらない。」これは官庁訪問中に職員さんに言われた言葉です。実際に働いている方に言われると、とても感動しました。この省庁で働きたい！と本当に思ったら是非目指してみしてほしいです。

### 公務員志望者へ

少し上にも書きましたが、公務員志望者は出来るだけ民間就活も経験するべきだと私は思います。面接の練習になる等のメリットだけではありません。初めから民間を捨てていると将来の仕事の選択肢がかなり狭くなってしまいます。そしてそれは面接で「なぜ公務員なのか」を説明するときに効いてきます。実際に民間も体験して、考慮に入れて、初めて自分が公務員である理由を説明しないと、面接でよい評価はもらえないのかなと思います。だから公務員志望者は就活も公務員一本になるのではなく、民間や地方公務員など見てみることをお勧めします。

## **\*最後に\***

一年前の今頃に楽しく読んでいた去年のこの「内定者の声」はとても面白く、参考になりました。頑張って自分もそんな内定者の声を書きたいと思って書きましたが、まとまりの無い文章になってしまいました。すみません。でも少しでも読んでいる皆さんのためになれば幸いです。ありがとうございました。

**\*スケジュール\***

○…環境省内定までに主に関係するもの		
	2016年(2~3回生)	2017年(3~4回生)
1月	・部活と塾バイトが忙しい (7月まで)	・5月とっていた1次試験が今年は4月でかなり焦る、勉強始める
2月		○第1志望を環境省に決める
3月		・勉強の本スイッチ入る ・民間のインターン楽しむ
4月		○総合職一次、教養で足切りを取ってしまったと思い落胆、翌日採点して復活 ・TOEICもギリギリ間に合い喜ぶ
5月	○初めて民間のインターンに参加し、将来への視野が少し広がる	○総合職一次合格 ○総合職二次、手がつる。
6月		○総合職二次面接・地方や一般職の1次試験 ○一次合格者接触可能期間にOB訪問 ○総合職試験最終合格
7月		○官庁訪問、環境省内々定もらう ○他省庁も真剣に考える
8月	○秋試験に向け公務員テキストを購入しパラパラする	・NBAを見てバスケットにはまる、練習して、大学の女子部と試合する
9月	○環境省サマトラに参加 ○総合職秋試験、良い練習になる(不合格)	・実験用温室(蒸し風呂)で卒論の測定ラッシュ
10月	・大学に欲しかったサークルを作る(良い思い出)	○最終面接、内定 (同期が初めて分かる)
11月	○全然関係ない業種の民間インターンに色々参加	・旅行(大台ヶ原、名古屋城など) ・大学で就活座談会を企画、後悔やアドバイスを1-2回生に伝える
12月	○関係ない企業を見ることで、逆に国家総合職への志望が固まってくる	・内定者ソフトボール大会 優勝には届かず ・総合職内定者福島研修(任意参加) 福島でのモヤモヤを持ち帰る

## 内定への道＜Cさんの場合＞

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】大学6年・男性・25歳

【併願先】経済産業省

【参加した説明会・回数】JOBトーク、霞ヶ関openゼミ等・4回

【試験区分】化学生物薬学（院卒試験） 【専攻科目】獣医学（外科学）

【1次試験選択】①基礎物理化学・基礎無機化学、②食品学、③応用微生物学・生物工学  
④細胞生物学・放射線学、⑤遺伝学・進化学、⑥生態学・系統分類学

【2次試験選択】生理学、食品学

### \*志望動機\*

私は、昔から動物が好きで、様々な動物を絶滅の危機から救いたいと思い、動物のお医者さんである獣医を目指しました。しかし、野生動物を救うには獣医の力ももちろん必要であるとは思いますが、むしろ動物が依存している生態系ひいては生息環境の包括的保全がより重要であると考えました。また、日本には里地里山のように人間の生活との関わり合いの中に暮らしている動物も多く存在します。そのため人々の生活を守りながら、動物を助けることができる仕事はないかと思っていたところ、先輩から環境省自然系のお話を聞き、ピンと来て環境省自然系を志望することに決めました。自然豊かな場所で地域住民と共に働くことで得た自身の経験を、本省で国の施策に反映できるということにもものすごく魅力を感じました。

### \*勉強方法\*

環境省を受けることを決めたのが遅かったので、実際に勉強を始めたのは2月頃だと思います。2、3月は研究と並行して勉強し、4月は他に就職活動をあまりしていなかったので勉強に専念することができました。民間の就職活動をするを考えている人はもう少し前もって勉強することを強くおすすめします。化学・生物・薬学を受験している人は少ないので受験について詳しく書きたいと思います。

### 【一次試験：基礎能力試験】

これが難しく、てこずりました。選択科目を相当勉強しなくてはいけなかったのですが、隙間時間にちょこちょこ勉強していました。計算、判断推理、資料解釈などの前半部分は慣れておく必要があると思います。時事対策として有名な参考書を一通り読んでおきました。後半の歴史問題は勘で解きました。院卒試験は後半の分量が少なく助かりました。

### 【一次試験：専門多肢選択試験】

化学・生物・薬学は20個の科目の中から5もしくは6個の科目を選んで合計30問答えるという方式で、分野も数学・物理から薬学、遺伝学、生態学など多岐にわたります。各科目の難易度は聞くとところによると大学院入試を簡単にしたくらいで、その科目を専門にしている人は容易に解けますが、私のように専門外の人間は教科書を使った基礎からの勉強が求められます。まず、過去問を何年分かさらっと見て、その中で自分がとっつきやすそうな科目を7個（余裕があれば8個）選んで勉強するとよいでしょう。私は、過去問を解きながら、わからない問題をノートに張り付けて問題に関連している項目を教科書で調べて周辺知識を固めていくという作業を主にしました。過去問を最低5年分しっかり解くようにしたらよいと思います。頻出な項目もある一方で、一定数は初めて出てくるような内容なのでまずは頻出項目をしっかりと固めるようにしましょう。一次試験は選択なのである程度の知識があれば解けるように思います。一次試験が終わるまで二次試験の勉強は一切していませんでしたが、二次試験は一次試験を難しくしたようなものなので、一次試験終わってからでも間に合うかと思います。ただ、一緒に受験していた大学の同期は民間企業の最終面接と重なり大変そうだったので、同じような境遇になりうるかたは注意してください。

### 【二次試験：専門記述試験】

一次試験が終わって息をつく暇もなく二次試験の勉強に取り掛かりました。二次試験は20個の選択科目の中から2個選んで解くという方式で、各20点と配点がものすごく大きいです。合格点は大体半分くらいかと思います。私は一次試験で選んだ科目のうち3個選んで集中的に勉強しました。勉強方法は一次試験と基本的には同じでしたが、一次試験問題の正解答の文章を参考に記述を練習しました。試験本番で勉強していた科目3個のうち2個はほとんど答えられないような問題でかなり焦りました。まったく勉強していなかった生理学の問題がたまたま少し見知っていたような内容だったので、なんとか記憶を探りながらそれらしいことを書き、結果的に半分点数を取ることができました。二次試験はどの問題が出るかという運要素もあるのは仕方ないですね。

### 【二次試験：政策課題討議試験】

私は大学の院卒区分を受ける同期何人かでグループを作り討議試験を模擬練習しました。民間企業のグループディスカッションと体裁が異なるのでこの試験のために練習を積んでおいた方がいいと思います。資料を読んで、自分の論旨を用紙にまとめ、それを基にプレゼンしたうえで討論するという内容ですが、練習前は笑ってしまうくらい下手くそでした。ただ資料の作り方やプレゼンの仕方も差がつくので、しっかり自分なりのスタイルを固めていくとよいかと思います。自分の発表の際には時間過不足なく話せると格好良くなります。また、討論は相手を論破するのではなく、協調点を議論の中で探るのが大事です。必ずしも議論を引っ張る存在である必要はありませんが、要所要所で自分の意見を発

言したり、現在の状況と議論すべき点を整理するとよいと思います。私の面接官は経済産業省の人で、試験の次の日に偶然会いました。笑

### 【二次試験：人物試験】

人物試験はコンピテンシーを問われる試験になります。最初コンピテンシーってなんじやいと思うかもしれませんが（私もその一人です）が、要するに国家公務員に必要なバランス感覚だと私は解釈しています。あまりとらわれなくても大丈夫です。面接練習は大学のキャリアサポートセンターや、都の仕事センターを利用して何回か人前で話す練習をしました。繁忙期はなかなか予約が取れないので前もって行動しましょう。友人同士で面接練習もしました。人物試験は基本的に面接カードに沿って行われるので、私は想定問答集を事前に用意しました。想定していないことも聞かれますが、焦らずに、必要ならば考える時間をもらって、自信を持って答えましょう。話す内容も大事ですが、はきはきと元気に笑顔で話すことの方が大事な気がします。

### 【官庁訪問】

私は1日目：環境省、2日目：経済産業省、3日目：総務省を訪れました。官庁訪問は各省庁の人が就活生のつたない考えを真剣に聞いてくれる場であり、正直に自分の思いを就活生に伝えてくれる場であるので色々な省庁を訪問することをお勧めします。環境省の第一クールは先着順に面接を行い、午前中は8人程度しか終わらないので緊張感から早く解放されたい人は早めに霞ヶ関に行くといよいと思います。私は朝7時に到着したところ2人目でした。面接は2対1の面接15分と原課訪問とそのあと1対1の面接15分で12時頃には終わっていたかと思います。面接は面接カードに沿って行われるので、面接カードの準備には相当時間をかけた方がよいと思います。幸いにも私の同大学の先輩が環境省にいらっしやったので、色々アドバイスをいただきました。面接カードのエピソードを通して自分がどういう人間であるかを伝えることが大事だと思います。面接では日頃の興味やニュースへの関心も問われるのでアンテナを張っておくといよいかなと思います（あいまいで申し訳ないです）。例えば、私は、最近読んだ本で印象に残っている本や最近の気になったニュースなどを聞かれました。第二クールは一発勝負、1対5の面接で面接カードに沿って色々聞かれます。偉い人ばかりで緊張しますが、聞かれる内容は一次と似たようなことも多いので安心して臨んでください。あれこれ言いましたが、自分の志望動機を徹底的に突き詰めて人に伝えることができれば大丈夫だと思います。気楽に行きましょう。

### ※他省庁について

経済産業省は環境問題に対する経済面からのアプローチに興味があり併願していました。総務省は地方創生の話聞きに急遽三日目の訪問を決めましたが、実際に取り組んでいる人の生の話を聞いたのは非常にためになったと思います。

### **\*アドバイス\***

各所で書かれていることとは思いますが、なぜ自分が環境省自然系に志望しているかを他の職種と相対化することが何より重要だと思います。なぜ民間企業でなくて国家公務員で、なぜ一般職でなくて総合職で、なぜ理工系でなくて自然系であるなどといった理由を自問自答するとよいと思います。もちろん他の職種と併願することは悪いことではないので、それぞれどういう目的や理由で志望しているのかを相手に伝えることが重要です。あとは自分の志望動機をとにかく周りのいろいろなバックグラウンドを持った人に聞いてもらうとよいと思います。自分の言いたいことが違うニュアンスや印象で相手に伝わっていることも多々あります。

### **\*最後に\***

就職活動は、特に公務員志望している場合には、ものすごく長丁場の戦いになります。本当に想像よりはるかに長いです。ただ、これだけ長期間、自分のこれまでの人生とそこから生ずるこれからのやりたいことや目標に考えを巡らせる時間は他にないと思います。正直、やりたいことなんてわかんないよと思うかもしれません。私は漠然と生きてきた感が強かったのもものすごく苦勞しました笑。ただ、時間をかけて、時には人と意見を交わしながら、考えていくうちに方向性はつかめてくると思います。あと持つべきものは友人です（模擬面接など本当にお世話になりました）。環境省自然系であっても、そうでなかったとしても、この内定者の声が皆さんの就職活動の助けになれば幸いです。

\*スケジュール\*

	2016年	2017年
1月		総合職受験を決意
2月		勉強開始
3月		研究が終わらなくて焦る
		総合職技術系説明会
		申し込み（友達の一人申し込み失敗）
4月	研究と授業	民間企業どうしようかと悩む
		4月から勉強に完全シフト
		下旬：一次試験
5月	研究と授業	GWもしっかりお勉強
		一緒に勉強していた仲間が離脱して悲しむ
		下旬：二次試験
6月	研究と授業	初旬：人物、政策課題討議試験
		公園訪問（尾瀬・日光）
		末：合格発表 とりあえず突破！
7月	タイ獣医大学 留学	5日～：官庁訪問
		中旬：内々定！
8月	タイ獣医大学 留学	下旬：アフリカへ出発
9月	タイ獣医大学 留学	アフリカ旅行
10月	タイ獣医大学 留学	内定式、国際学会
11月	研究	卒論準備
12月	先輩から環境省の話聞く	卒論提出&発表、獣医国家試験勉強開始

## 内定への道＜Dさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女性・24歳

【併願先】なし（平成27年度一般職林学試験合格済）

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会のみ（計1回）

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】海洋生態学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③造園計画（自然公園）

【2次試験選択】自然環境・公園緑地に関する基礎（No.7およびNo.8）

### \*志望動機\*

政策の推進や法改正を通して社会全体の意識や行動を環境により良い方向へ導きたい、という思いから環境省を志望しました。

学部4年生の時に地方環境事務所でインターンシップをさせていただいた際に伺った「自然の一部を利用することで他を守っていく」という言葉が思いを抱いたきっかけとなっています。それまではただ漠然と自然に関わる仕事がしたいという考えでしかなかったのですが、この言葉がきっかけで目先のものをただ守るだけでなく全体を考えて動く仕事に関わりたい、と思うようになりました。ただこの時にはまだ自然の中で直接関わりたいと考えており、一般職を志望していました。

その後大学院に進学して地方の臨海実験所に所属し、地元の方々と触れ合う中で全体を変えるためには政策や法改正などの働きかけを考えなくては行けないのではないのかという思いを抱き、自然環境局で再度インターンシップをさせていただきました。そこで「国、企業、消費者、社会という環境教育の連鎖を期待し、そのための働きかけができる」という言葉を伺ったことで、社会的側面をも考慮した働きかけを国民に対して行うことで、ただ一部の環境を守るのではなく社会システムの変革へ繋がられるのだということに魅力を感じ、環境省総合職自然系の志望を決めました。

### \*勉強方法\*

#### 【TOEIC】

大学院1年生のときに受験したTOEIC試験で730点はクリアしていたことで、英語加点を前提に一次試験に臨めたことは、精神的な支えとなりました。（後述のとおり、勉強を始めたのがギリギリで点数的な余裕がなかったため。）

TOEICの結果は5年間有効で使えるため、自分の英語力が最も伸びている時期に受けると比較的に点数が取れ、後々役に立つと思います。（私は留学後かつ海外の方と喋る機

会が増えていた時期でした。)

#### 【1次：基礎能力試験】

1月末まで一般職・総合職のどちらにするか迷っていたこと、また研究室での発表があったことから、本格的に勉強を始めたのは2月後半からでした。時間との兼ね合いからかなり絞った勉強をしたので、まだ時間のある方は他の方の体験を参考にされると良いと思います。

目標とやったこと

#### 文章理解

8題を全問正解する。読解に慣れるため、毎日少しずつでも時間を気にして解くことを心がけました。

#### 判断・数的推理

難易度の低い問題を落とさない。苦手な範囲であり、かつ克服しきる時間もなかったことから、低難度の問題を確実に解けるようにすることを目標としていました。正解・不正解にあまりこだわらずに解く問題の量を増やし、慣れることに努めていました。(それでも最終的には過去問1年あたり5問程度の正解数にしかありませんでした・・・)

#### 知識問題

時事問題を落とさない。知識問題のうち半分程度が時事だったため、他の人文・社会の勉強は一切諦め、時事問題のみを勉強していました。

#### 【1次：専門（多岐選択式）試験問題】

海洋系の研究室であったため、全く知らない知識が多く、初めて解いた段階ではほぼ点数が取れませんでした。過去問を解き、そこに出てきた法律や知識をまとめて暗記、また過去問を解く、ということを繰り返しました。各法律については要約したものがホームページ上にあり、概要をつかむのに大変役立ちました。

#### 【2次：専門記述試験】

本格的な対策は1次試験の終了後からはじめました。基本は1次の多岐選択式試験の勉強範囲と同じでしたが、やはりただ暗記している状態ではなかなか書くことができず苦勞しました。余裕があれば1次試験の段階で記述式で書くことを前提とした勉強をするほうが結果として効率がいいと思います。

#### 【2次：政策課題討議試験】

大学のキャリアセンターで実施されている練習会に参加しました。レジュメの作成から討議の流れなどかなり参考になったので、もし身近でそういった練習会があれば多少無理してでも参加してみるといいと思います(私の場合は本キャンパスのみでの開催だったため、友人の家に1週間泊まり込みました)。その中で学んだ議論の目的(テーマ)を常に意識しておく、ということは本番でもとても大事だったと感じています。(議論の本題から外れて脱線しかけました・・・)

#### 【2次：人物面接】

エピソードの整理や面接カードの確認をしているうちに内容を覚えてしまい、また本番で

緊張しすぎた結果、面接官との会話ではなく一方的なお喋りを披露してしまったことが反省点でした。内容については基本的には面接カードに沿った質問だったため、書く過程で各項目に関してなぜそれを選んだのか、またそこから何を学んだのかなど、深く考えながら書いていれば自然に応えられる内容だったと思います。

#### 【官庁訪問】

2次試験後から準備をはじめました。自分の書いた訪問者カードを研究室の先輩に何度か見ていただき、また、最新のニュース等で関心のあることを少し調べたりしていました。私の訪問順は以下のとおりです。

第1ターム 1日目：環境省 2日目：文部科学省 3日目：警察庁

第2ターム 1日目：環境省

第1クールは朝7時半頃に到着し、午前中のグループに入りました。順番は合否に全く関係ないとは思いますが、官庁訪問中は夜遅くなることも多く疲れがたまるため、少し早めに行ったことで早く帰れるならその方が楽かもしれません。

面接では1回20分程度でブース面接・原課面接・出口面接を行いました。ブース面接ではただ面接カードに沿うだけでなく、「～の場合どうするか?」「～を改善するためにはどうすればいいか?」など厳しい質問もされました。ちなみに私は実家のすぐ近所が国立公園だということを忘れていて面接官に指摘されてしまいました。それくらいでは落ちないので安心して下さい。(すぐに「～をより国立公園らしくするにはどうすればいいと思うか?」という質問をされてしまいました。・・・) 全体的に知識量等ではなく人柄や考え方を見られていると感じましたので、難しく考えすぎず、落ち着いて面接官の話を聞き、自分の考えを伝えていければ良いと思います。

第2クールでは幹部面接が行われました。ここで聞かれたことは自分自身でも聞かれると痛いなと考えていたことやなかなか答えづらいことが多く、面接後にへこんで日比谷公園のベンチでしばらく落ち込んでいました。結果的には採用していただけましたので、あまり自分だけの所感で一喜一憂する必要はなかったなと思います。

#### \*アドバイス\*

##### 【インターンシップについて】

大学3年生のときに地方環境事務所で、大学院1年生のときに自然環境局でインターンシップをさせて頂きました。その時に携わった業務の内容だけでなく、様々な方に直接伺ったお話が環境省を目指す決め手となり、また面接の際の支えにもなりましたので、機会があれば是非やってみると良いと思います。

##### 【自然保護官事務所の訪問について】

私は一般職・総合職で迷っている段階で1箇所訪問させて頂きました。現場の方からお話を伺えたことは総合職に決めるにあたってすごく参考になり個人的は訪問して本当に良か

ったと思っています。

**【説明会の参加について】**

私の所属していた研究室は説明会等の開催される本キャンパスから離れた場所にあったため、1次試験後の合同説明会以外は全く参加しませんでした。インターンシップをしていたからかもしれませんが、全く不便は感じませんでしたので、無理はせずできる範囲で参加すればいいと思います。

**【宿泊について】**

私は自然環境局のインターン（1月）、2次面接、官庁訪問とすべて同じ八丁堀のホステル（1泊3000円程度）に宿泊しました。宿泊が長くなるということでキッチン・洗濯機のあるホステルを選んだのですが、やはり夜遅くまで人の出入りがあるなどはありましたので気になる方は個室のホテルやカプセルホテルのほうが良いかもしれません。

**\*その他\***

レンジャーになりたい、という思いでずっと進んできましたが、総合職受験を決めたのは1月末ですし、官庁訪問中に警察庁にもものすごく魅力を感じて揺れ動いたこともありました。また、研究と勉強の両立に悩み、大学院進学を後悔したこともあります。ただその中で数十年後に後悔しないような選択を行うことは常に心がけていました。その結果として内定をいただくことができ、本当に嬉しく感じています。就職活動の中で進路に迷うことも多くあるとは思いますが、後悔の無いよう、自分にまっすぐに挑戦し続けてほしいと思います。長々と読んでいただき、本当にありがとうございました。

\*スケジュール\*

	2016	2017
1月	卒業研究	自然環境局にてインターンシップ、 自然保護官事務所訪問（勉強ほぼせず）
2月	卒業研究、スキー	半ばに研究室所在地での講演会。準備に追われる。 講演会終了後、勉強スタート。 専門の過去問全く解けず・・・
3月	スキー、サークルの 大会、卒業式	学会にてポスター発表。準備の合間で勉強。 試験が1ヶ月早まったことを知り絶望する
4月	研究	ひたすら勉強。（研究は完全に放置。） 30日：第1次試験
5月	大学院の授業、研 究、バイトに明け暮 れる	帰省、ひたすら勉強。 （研究は前年度のまとめと解析のみ。） 12日：第1次試験合格発表 28日：第2次試験（筆記）
6月		人物面接・政策課題討議試験 30日：最終合格発表
7月		官庁訪問 千葉県で研究室の調査に参加 帰宅後研究再開
8月		研究
9月		研究
10月		内定式、奄美旅行、修論スタート
11月		富士旅行、修論
12月		台湾旅行、修論

## 内定への道＜Eさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・男性・24歳

【併願先】博士課程進学

【参加した説明会・回数】インターンシップ（野生生物課）、1次試験後の合同説明会

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】保全生態学、景観遺伝学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③造園計画（自然計画）

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1 及び No.2）

### \* 志望動機 \*

父親が自然関係の職に就いていることもあって、幼い頃から自然の中で過ごし、物心が就いた頃には生き物好きに染まっていました。熊本県阿蘇市に住んでいた頃に、環境省主催の「子どもパークレンジャー」に参加して、ハナショウブやオオルリシジミの危機的状況を知り、子供心に大好きな生き物を守りたいと思ったことが、当時から今に至るまで続く大きな志望動機です。

### \* 勉強方法 \*

私が総合職試験を意識し始めたのは高校生の時からですが、実際に対策らしい対策を始めたのは1次試験の合格通知が届いてからでした。試験対策は王道とは言えない方法ですので他の方を参考にするのが無難だと思います。一事例として話半分に聞き流してください。読み飛ばして貰っても構いません。

#### 【1次：基礎能力試験】

特に対策はしていません。文章理解や数的処理、判断推理に関しては、小学生の頃から小説やパズル雑誌を読んでいたこともあって、対策を行わなくてもある程度解くことができました。一方で、知識問題に関しては、試験当日は1問も分かりませんでした。院卒程度だと知識問題は3問程度しか出題されないため、知識問題が苦手な人は戦略的に大学院に進学すると何とかなるかもしれません。競争率も1/3以下に下がります。

#### 【1次：専門多肢選択式試験】

大学受験が最大の試験対策だったと思います。志望大学を選考するにあたって、過去に卒業生を環境省（総合職）に送り出していて、なおかつ試験区分である林学を学ぶことができることが大きな判断基準でした。1次試験に合わせて特別な対策をしませんでしたが

(と言っても H19～28 年度の過去問を取り寄せて一通り目を通すくらいはしました。)、普段から公務員試験を意識して授業やテストを受けていたので、試験対策を 4 年かけて行っていたとも言えるかもしれません。基本的に授業で配られた資料を中心に勉強していました。主専攻であれば、専門試験の問題はそこまで難しくないと思います。

私の話ではなく大学の同期の話なのですが、過去問に出てきたキーワードを「森林・林業実務必携」に印を付けて、印をついているところを中心に読んだら、一次試験を突破することが出来たと言っていました。「森林・林業実務必携」は公務員試験のバイブルと言われている本なので、必携とまでは言いませんが持っているといいかもしれません。

## 【2 次：専門記述式試験】

ある程度の生態学の知識があることを前提にして話します。まず、過去 10 年分の過去問を解いて、それぞれのキーワードを洗い出し、その結果、“生物多様性”と“国立公園”の 2 つのキーワードに関する問題が頻出されていることがわかりました。シンポジウムや生態学会、環境白書から最近の環境省の動向を追い、“生物多様性”に関しては環境と経済の関係 (JB02、ABS、REDD+ など)、“国立公園”に関しては満喫プロジェクトが HOT な話題であり、この 2 つに関連する問題が出題されると予想をたてました。そして、環境省の HP から、それぞれのプロジェクトの計画書と有識者会議の報告書の PDF をダウンロードして、問題点と解決策 (短期目標及び長期目標) 中心に 1 週間くらい時間をかけて読み込みました。実際に行われているプロジェクトの資料を読むと、問題点と解決策が詳細に書かれているので、記述試験の対策にはかなり向いている方法だと思います。また、山勘が外れた時の保険として、他のキーワードに関連するプロジェクトの資料も一通り読みました。過去問のキーワードは重複していることが多く、プロジェクト数もべらぼうに多いわけではないので、関連プロジェクトの資料を網羅的に読むことも難しくないと思います。今年度の記述試験は、山を張ったところが 9 割方当たった形となり、かなり解答しやすかったです。

## 【2 次：人物試験】

ブログに書かれている体験談を参考にしました。面接カードから逸脱した質問はされない、アルバイトの面接レベルのコミュニケーション能力があれば大丈夫みたいな記事を読んで、気を張らずに人物試験を受けました。大体の人が C 判定になるらしいので、はなから C 判定を狙って気楽に試験を受けたほうが上手くいくと思います。面接カードは、自分が答えやすい質問を聞いて貰えるように、釣り針を垂らすような工夫を心がけましたが、釣り針に引っかかってくれたかは正直覚えていません。

## 【2 次：政策課題討議試験】

こちらでもブログの体験談を読んで試験の雰囲気把握していました。英語の資料は読めない人が多いから読めなくても大丈夫。という内容の記事を見かけたので、英語の資料に

は全く手を触れずレジュメ作成の方に時間をかけるようにしました。実際、英語の資料を引用したレジュメを作成している人は1人しかいなかったもので、議題に挙がることはほとんどなかったと記憶しています。試験内容は、賛成派と反対派に分かれて討論されることが多いみたいなのですが、私たちのグループは全員が賛成派で対立意見がなかったので、与えられた資料に書かれている問題点を解決する方法を提案し合いました。

### 【官庁訪問】

私の訪問順は以下の通りです

第1 ターム 1 日目：国土地理院、 2 日目：環境省、 3 日目：林野庁

第2 ターム 1 日目：環境省、 2 日目：林野庁

多くの人が第1タームに第一志望の省庁に行くと思いますが、私は2日目に回しました。その理由として、一昨年、官庁訪問された先輩から「第1タームの1日目で第一志望に行ったら面接慣れしていなくてダメだった」という体験談を伺っていたため、思い切って順番を入れ替えることにしました。実際に、2日目、3日目は、第2志望、第3志望の人たちが多かったので、待合室の空気がピリピリしていなくて適度な緊張感で挑むことが出来ました。この作戦が功を奏したのではないかと考えています。

環境省の身上書は2枚目が白紙なので何を書いたらいいのか悩む人が多いと思います。実際に私も悩みました。最終的には何も書かずに提出しましたが、大丈夫でした。結局のところ、身上書はレポートではないので、自分が面接で聞かれた時に受け答えしやすい内容を広く浅く書いておくのがベターな気がします。肝心の面接は正直上手く出来た気はしないのですが...素の自分を出すことが重要だと思います。最終面接のときに素の自分を出し切れなくて、今でも後悔しています。面接の形式は、第1タームが1:2のブース面接 → 原課面接 → 調査官との面接の計3回で、第2タームが局長・課長級との1:5の面接の1回でした。

### \*アドバイス\*

教科書的な勉強も必要だと思いますが、シンポジウムや学会に参加するなどをして、実際にどのような社会問題があるのか、その社会問題を解決するためにはどのようなことをすればいいのか、そして実際にどのような取組みが行われているのか、を知ること・考えることが重要だと思います。一事例でもいいので、自分なりの意見を説明できるようにしていると強みになると思います。地方在住などで、そのようなイベントに参加することが難しい方は、SNSを使って情報収集するのも手かもしれません。情報にはピンからキリまであるので、自分で取捨選択する必要がありますが、様々なステークホルダーの意見が飛び交っているので、その社会問題を多方面から見つめるには優れたツールだと思います。

**\*スケジュール\***

	2016年	2017年
1月	卒論提出	分子実験
2月	卒論発表 大学院入試	カンボジアで調査
3月	奄美大島の調査ボランティアに参加 学会発表	奄美大島の調査ボランティアに参加 学会発表
4月	大学院入学 総合職試験の申込みを失念する	学振書類作成 (~5/17) 【30】 一次試験
5月	希少種関連のミーティング	【28】 二次試験 18~試験対策開始
6月	狩猟免許を習得	【15】 人物試験 23 合同説明会に参加 利尻礼文サロベツ国立公園訪問
7月	妙高戸隠連山国立公園で調査	大雪山国立公園で調査 台湾訪問 【5-7,11-12】 官庁訪問
8月	中部山岳国立公園訪問	中間発表
9月	阿蘇くじゅう国立公園訪問 学会参加×2	小笠原国立公園訪問 学会発表
10月	南アルプス国立公園で調査 希少種関連のシンポジウムに参加	【2】 内定式 やんばる・西表石垣国立公園訪問
11月	やんばる国立公園訪問	修論執筆
12月	分子実験	修論執筆

## 内定への道＜Fさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・男性・23歳

【併願先】民間（コンサル会社、シンクタンク）

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会（1回）

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】森林生態学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③造園計画（自然公園）

【2次試験選択】森林科学に関する基礎知識（No.1 及び No.3）

### \* 志望動機 \*

私は、大学入学当初から漠然と自然を守る業務に携わりたいと考えていました。大学時代は海外の国立公園にもいくつか赴き、日本とは一味違う雄大な自然を満喫しました。一方で、研究のフィールド調査では中部日本を中心とした森林に頻繁に足を運び、日本ならではの自然に心惹かれていきました。そのような経験から、自分が海外の国立公園で味わった感動を、日本の国立公園で感じてもらえるような業務に携わりたいと考えるようになりました。その時、自分の思う自然を守りたいという思いは、今ある素晴らしい自然を守るだけでなく、どう多くの人に伝えていくかということなのだ気付きました。こうして初めてレンジャー職に興味を抱きました。

その後、OB・OGのレンジャーの方とも話しをする中で、レンジャーというのは対自然ではなく対人の業務なのだ気づかされました。私はその話を聞いて、自然を守るのは突き詰めていけば人と自然の調和があってこそだということに改めて気付かされ、一見大きな組織に見えながらも一人一人と対話しながら自然を守っていくというレンジャーのスタイルに魅力を感じていきました。その一方で、長期的なビジョンを持ちつつ将来の人々のために自然環境に携わることのできる面にも魅力を感じ、「レンジャーになりたい！」という意思が強くなっていきました。

### \* 勉強方法 \*

私は「志望動機」に書いたように、レンジャーを志した時期が非常に遅く、実際に勉強を開始したのは4月に入ってからでした。ここでは自分が限られた時間の中でどう勉強したのかという点、またもっとこうしておけば良かったという点を試験内容ごとにまとめて紹介したいと思います。

### 【勉強に入る前に、、、】

すでにだいぶ時間はなかったのですが、闇雲に勉強を開始しても受からないと思い、まずは情報収集と計画立てを行いました。情報収集としては、そもそもどんな試験があるのか、試験を突破するために何にどのくらい重点を置いて勉強しなくてはいけないか、そして用いる参考書や資料のリストアップといったことがメインです。そして、これを元に何をいつまでに終わらせるかという計画を立てました。ごくごく当たり前のことかもしれないですが、ここが一番大事なのではないかと思います。

ここでとても役に立ったのが、内定者の声でした。これはまさに神冊子です！これを読むことできっと自分が合格するまでの道のりのイメージが出来上がっていきます。また一番大切なレンジャー職を目指す上でのモチベーションが湧いてきます。

私の場合、最初の情報収集だけでなく、何度も読み返すことで自分の進度を随時確認していました。

### 【1次：基礎能力試験】

まず教養試験は半分くらいが数的推理・判断推理です。つまり、ここを得点源にすれば、かなり合格の可能性が高まります。私は、数的推理・判断推理の参考書を軸に土台を固め、過去問を使って残りの文章理解（国語・英語）、資料解釈を含めて実践的に勉強しました。一方で、速攻の時事を毎日コツコツ寝る前に読んで、一応全ての問題に対応できるようにしました。特に、数的推理・判断推理は早めからやっておいた方が良いでしょう。できれば、公務員試験を受けようと思った時からコツコツと。これは暗記ではどうにもならないですし、全範囲を網羅して慣れる段階まで持っていくには非常に時間がかかります。苦手な分野は周回しなければならぬと思います。

### 【1次：専門多肢選択式試験】

専門試験は、森林科学の教科書、森林・林業白書で知識を吸収していききました。そして、それと同時並行で、過去問 8 年分くらいを解いていききました。過去問を解く上で重要なのは、不正解の選択肢もどこが違うのかをしっかりと考えて調べること。過去問ノートはそこがまとまっているので、非常に重宝しました。それでも疑問に思うところはネットや森林・林業白書を使って徹底的に調べ、まとめました。最初は全く歯が立たないかと思いますが、次第に傾向が読めて解けるようになっていきます。

### 【2次：専門記述試験】

勉強内容は 1 次の専門試験と重なるので、1 次の専門試験の勉強をしっかりやっているほど 2 次の勉強が行いやすくなるかと思います。1 次の勉強でも読んだ森林・林業白書の熟読や 2 次試験の過去問を 5 年分ほど行いました。白書を読む際に心がけたのは、スラスラとペンを走らせることができるようになるまで内容を理解し暗記することです。1 次の勉強の時と違ってうる覚え程度の記憶だとなかなかペが進みません。過去問を解く際は、調べな

がらでもいいので解答を自分で作ってみることが大事だと思います。できた解答を見直し、また暗記するという作業を行っていました。解答が公開されていないので不安になるかもしれませんが、その不安を払拭するまで調べ解答を作り上げる力を磨くことが合格への近道になるかと思います。

### 【2次：政策討議試験】

政策討議試験の対策のため、大学の就職課が行う集団討論の練習に行きました。流れは少し違いましたが、実際に練習するのが一番だと思いました。私の場合、同じく国家公務員を目指す同級生達とそこで知り合うことができたので、グループラインを作って政策討議の情報を交換していました。試験直前では、再度仲間達で集まって本番さながらの練習を行いました。このおかげで本番はそれほど緊張せずに臨むことができました。

討論の練習を行うのが難しい時は、最低でもレジュメの作り方は練習しておいた方が良いでしょう。

### 【2次：人物試験】

私は民間の就活も行なっていたため、ある程度面接に対しては緊張せず臨むことができました。それでも本番に近い練習が必要だと感じたので、大学の就職課で面接練習をお願いしました。また、研究室の同期にも頼んで模擬面接を行いました。このおかげでだいぶ自信を持って試験に臨むことができました。

面接はやはり準備が大切だと思いました。これが自信をつけて本番でリラックスできる唯一の方法だと思います。

### 【官庁訪問】

準備として、日程をよく確認し訪問する省庁を決めておく必要があります。HPに掲載される訪問カードを作成して本番に臨みましょう。逆質問も考えておきましょう。服装は、基本クールビズ推奨なので、男性はノーネクタイ・ノージャケットで大丈夫です。

官庁訪問は長くて2週間丸々かかります。たとえ帰りが遅くなったとしても、1日1日きちんと寝て、翌日の省庁に備えることが大事だと思います。

せっかくの機会ですので、いろいろな省庁を訪問してみることをお勧めします。第1クールから3省庁訪問しました。普段聞けない省庁のお仕事について学ぶことができましたし、他の省庁を知ることによって環境省の省庁としての位置付けも理解することができました。そして、何よりも全国津々浦々から集まっている同じ省庁を目指す仲間と喋ることはとても楽しいものです。待ち時間が長くても退屈せずにすみます。また、官庁訪問の行き先を聞くことで自分が行ってない省庁の情報も聞くことができるので、積極的に話しかけていきましょう。

### **\*アドバイス\***

- ・ TOEIC を受けましょう

TOEIC の加算はかなり大きいです。730 点以上だと 25 点加算なので、かなりのアドバンテージになります。

- ・ 数学関係の対策は早めに

数的推理、判断推理はやはり慣れるのに時間がかかります。しかも、1 次試験の 7 割程度とかなりウェイトが大きくなっています。なので、早いうちから毎日クイズ感覚でコツコツと解いていくことをオススメします。

さらに、就活を考えている方は、SPI などの基礎能力テストを受けることがあるのですが、問題的に似ているものもあるので (SPIの方が難易度的にも簡単) こちらの対策にも繋がってきます。

### **\*その他\***

- ・ 民間の就活と公務員試験対策は両立できるか

できると思います。ただ、民間は対顧客や対企業、公務員は公共のために仕事を行うというようにそもそもの対象や目的が大きく違います。なので、同じような志望動機でもその違いを自分で認識しておくことが大事だと思います。

私の場合、就活で行なった面接や ES の書き方の経験は少なからず公務員試験にも生かされました。しかも、就活中に民間企業と省庁の関係を認識できたことは大きな意味を持ちました。なので、両方やっているからといって不利になるとも思いません。

- ・ 勉強する上で心がけたこと

計画立てと集中力の持続です。計画は月単位の計画と週単位の計画と日単位の計画と細かく立てました。1 日の中でも午前は暗記、午後は実践演習、寝る前に軽く復習というパターンを決めて、同じことをだらだらと続けないように自分の中でメリハリをつけて勉強していました。

- ・ たまにはリフレッシュも

公務試験は本当に長丁場なので適度にリフレッシュすることも大事になってくると思います。私は 1 次試験が終わった後はゴールデンウィークだったので、ラフティングをしに出かけたりしました。結果的に次の試験への良い気持ちの切り替えになったと思います。

- ・ 最後に、、、

自分もまさか合格できるとは思っていませんでした。大事なのとはとにかく諦めないこと、自信を持つことに限ります。胸を張って各試験に挑みましょう。

**\*スケジュール\***

	2016年	2017年
1月	卒研要旨提出	大学院の授業、研究
2月	卒研発表	伊豆諸島で実習 就活の準備をぼちぼち始める
3月	フィリピンで研究発表 サークルの卒業旅行 卒業式	タスマニアで実習、国立公園を回る 学会参加 民間の就活開始 公務員1次試験勉強を開始
4月	大学院入学	民間の就活真っ只中 定期的に過去問を解いていく この頃から研究室にこもる生活が始まる 30日：1次試験
5月	大学院の授業、研究	ラフティングで気分転換し、2次試験の勉強開始 民間の就活終了 12日：合格発表、合格して喜ぶ 23日：1次合格者向け説明会に参加 28日：2次試験
6月	大学院の授業、研究	14日：人物試験・政策討議試験 30日：最終合格発表、思ったよりいい成績で驚く 本州中部で調査、日光国立公園や上信越高原国立公園を回る
7月	本州中部で調査	5-19日：官庁訪問（第2クールで終了）
8月	陸前高田のお祭りに参加 本州中部で調査	甲子園観戦 井川で調査 木曾駒で調査
9月	WWFにてインターン 本州中部で調査	四国で調査
10月	学会発表	2日：採用面接、内定式 学会参加のはずが飛行機欠航により行けず
11月	フルマラソン完走 福井県で調査のお手伝い	八ヶ岳でシカ調査のお手伝い
12月	大島に行く、レンジャーさん のお話を聞く	官庁対抗ソフトボール大会 修論執筆

## 内定への道＜Gさんの場合＞

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・男性・24歳

【併願先】埼玉県庁、一般職（林学）、民間（飲料メーカー）など

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ等・5回程度

【試験区分】森林自然環境（院卒試験） 【専攻科目】環境学・分子生物学

【1次試験選択】①森林環境科学、②森林資源科学、③造園計画（自然公園）

【2次試験選択】自然環境・公園緑地に関する基礎（No.7及びNo.8）

### \*志望動機\*

私は小さい頃から生き物や自然が大好きな子供でした。よくカブトムシやトンボ、ザリガニなど、たくさんの生き物を捕まえて飼育したり、図鑑を読んだりしていたのを覚えています。ただ、当時は医者になるのが夢でした。理由は簡単で、そのときは警察官と消防士と医者とはサラリーマンくらいしか職業を知らなかったからです。

高校生になって、文理選択や進路選択をする時期になり、より具体的に自分の将来について考えるようになりました。今まで漠然と医者になりたいと考えていたけれど、それが本当にやりたいことなのか、自分が本当に好きなことは何なのか、自問自答するようになりました。ちょうどこの頃、早朝にジョギングをするのが趣味で、よく土手の上を走っていました。私の地元は埼玉県の田舎なので、自然が多く、きれいな小川も流れています。ジョギングの傍ら、そんな自然の風景を見ているうちに、やはり自分は自然が好きで、自然を守る仕事に就きたいと思うようになりました。

大学に入学してからは環境関連の資格の取得を通し、環境問題の現状と保全へのアプローチについて勉強しました。最初、私は自然が好きなので現場で保全に取り組みたいと考えていましたが、勉強を通して、個人ができる取り組みより国民一人一人が環境保全に参画できる制度づくりのほうが重要であると考えようになりました。また、学部の卒業研究では植物病理学を専攻し、病気の蔓延防止に関する研究を行いました。研究をするにつれ、現場でのアプローチだけでは限界を感じ、法律による規制の必要性を実感しました。このような背景から、制度や枠組みをつくることで環境保全にアプローチできる環境省（総合職）を志望しました。

他の省庁にない環境省の魅力は、生物の生息域であるフィールドの保全だけでなく、レッドリストなどで種を指定し、生物を保全することができる場所だと思っています。

### \*勉強方法\*

私は学部4年、修士1年でも総合職試験を受験しており、今回で3回目の受験でした。それなので、試験内容や配点、時間配分などはある程度理解していました。しかし、今まではあまり真面目に受験勉強をしておらず、本格的に勉強を開始したのは修士1年の1月頃でした。基礎能力試験より専門試験のほうが配点は高いので、勉強時間は基礎:専門=3:7くらいの比率で勉強しました。過去問は1次試験の1ヶ月前から取り掛かりました。過去問を利用することは非常に重要で、私も過去問を繰り返し解いた試験直前で点数がぐっと伸びました。知識はインプットだけでなく、過去問などを利用してアウトプットすることで定着すると思うので、過去問は早い段階で有効に利用したほうが良いと思います。また、勉強スタイルは人それぞれですが、私の場合はよくカフェなどを利用して勉強していました。場所を変えることで気分転換でき、集中力を保つことができました。

#### 【1次：基礎能力試験】

基礎能力試験はとにかく時間がないです。なので、まず1年分の過去問を解き、時間配分や自分なりの解く順番を確立したほうが良いと思います。私の場合、国語(15分)→英語(25分)→知識問題(No.25~30)(25分)→資料解釈(15分)→判断・数的(60分)の順番で解いていました。判断推理・数的推理はある程度問題に慣れる必要があるのですが、毎日解いたほうが良いと思います。知識問題は問題数が少ないですが、せめて時事問題だけは対策しておく方が良いです。速攻の時事の頻出ポイントを重点的にやっておくだけでも得点になります。私は時事問題と得意であった倫理(思想)、生物を復習しておきました。一方で、政治経済、世界史、日本史、物理などは捨て問にしました。知識分野はかなり幅広いので、得意な分野だけに絞って勉強しても良いかもしれません。

#### 【1次：専門多肢選択式試験】

専門試験の対策は森林林業白書、実務必携を熟読してから過去問に取り組みました。できれば過去問は早めに取り組むべきだと思います。私の場合、試験の1ヶ月前までひたすらインプットを行い、その後過去問を解いてみたら4割くらいしか得点できず、かなり焦ったのを覚えています。その後、過去問の演習と復習(すべての選択肢を確認する)を繰り返すうちに得点が伸びました。過去問は最新の5年分を繰り返し解きました。時間があれば10年分くらいやっても良いかもしれません。

森林林業白書を読むときは図(グラフ)にも注目して読むと良いと思います。生産量や価格がどのように変化しているのかを問う問題がよく出ていた気がします。可能であれば、おおまかな数値も覚えられると良いです。

## 【2次：専門記述試験】

2次試験の対策は1次試験が終わってから始めました。遅いと感じるかもしれませんが、1次試験の勉強が2次試験の対策に繋がっているので大丈夫だと思います。私は最初に過去問5年分くらいに目を通し、問題の傾向をつかみました。そして、自分なりに出題される問題を想定しながら白書を読みました。

森林科学に関する基礎知識と自然環境・公園緑地に関する基礎の両方の対策をするか、あるいはどちらかに絞って勉強するかかなり迷いましたが、私は自然環境・公園緑地に関する基礎に絞って勉強することにしました。そのため、森林林業白書だけでなく、環境白書も読みました。

## 【2次：政策討議試験】

政策討議の対策は国家総合職を受験する学校の友達と一緒に行いました。本番を想定しての実践練習を行ったことで、試験の雰囲気にも慣れることができたし、周りの友達に良かったところ、改善すべきところを指摘してもらうことで自分ひとりでは気づけないところに気づくことができました。

政策討議の対策は軽視してしまいがちですが、対策をしている人としてない人ではレジュメの作り方に大きな差が出ているような気がします。見やすく、要点が整理されたレジュメを作る練習はしたほうが良いと思います。

## 【2次：人物試験】

人物試験も他の受験者と差がつかないと軽視しがちですが、しっかり対策をすればAの評価をもらうことができます。私は学校の公務員講座（人物試験対策）に参加して対策を行いました。基本は多くの民間企業で採用されているのと同じコンピテンシー型の面接です。それなので、過去の経験（エピソード）とそのときどのように考え、どのように行動したのかをわかりやすく的確に話せるように練習したほうが良いと思います。評価基準となる項目もある程度想定できる（公表されている？）ので、面接官がチェックする項目をエピソードに織り交ぜながら話すことを意識すると良いです。

私は民間企業の採用面接を多く受けていたので、本番であまり緊張せずに臨むことができました。コンピテンシー型面接の練習にもなるのでぜひ民間企業の採用面接も受けてみると良いと思います。

## 【官庁訪問】

私の訪問した省庁は以下の通りです。

第1クール 1日目：環境省 2日目：林野庁 3日目：国土交通省

第2クール 1日目：環境省 2日目：林野庁

環境省を志望していましたが、他の省庁も訪問しました。他の省庁の方の話を聞くこ

とで環境省でしかできないことが明確になり、どうして他の省庁でなく環境省なのか？という問いに対する考えが自分の中で整理できるようになりました。ちなみに環境省の採用では何日目に訪問しても有利・不利になることはないようです。また、席次も関係ないようなので自信をもってトライしましょう。

官庁訪問では面接カードをもとに面接を行います。面接カードは手書きでもPCで打ち込んで大丈夫です。私は手書きで書きましたが、PCで打ち込んでいる受験者のほうが多かった気がします。また、裏面は白紙（自由記入欄？）になっていますが、個人的には書いても書かなくてもあまり関係ないような気がしました。私はちょっとだけ書きました。面接カードは第1クールでも第2クールでも使われるので、しっかり自分の良さが出るように書いたほうが良いと思います。

第1クールでは面接を3回行いました。1回目は2（面接官）対1（受験者）のコンピテンシー型面接でした。人事院の採用面接に近いイメージです。ブースは2つあり、どちらかに振り分けられます（訪問した順番の奇数・偶数だと思います）。雰囲気は和やかですが、レンジャーの素質などをしっかり見られていた気がするので、自己PRをちゃんとしたほうが良いです。2回目は原課面接で、私は野生生物課で面接を行いました。どの課で面接を行うかは受験者ごとにばらばらだと思います。1（面接官）対1（受験者）の面接でしたが、面接という感じではなく、仕事内容や直面している課題など業務の説明を受けながらこちらから逆質問していく雑談形式でした。話しやすい雰囲気なので積極的に気になったことは質問していくと良いと思います。3回目は調査官との1対1の面接でした。面接というよりほぼ雑談みたいな感じで、一番和やかな雰囲気でした。あまり緊張せずにリラックスして臨んで良いと思います。

第2クールでは幹部面接を1回行いました。5（面接官）対1（受験者）の面接で緊張感がありました。採用に関係なさそうな質問から答えにくい質問まで幅広かったです。面接時間はかなり短いので（10分くらい？）、限られた時間で自己アピールをしっかりとしましょう。

### **\*アドバイス\***

自分の反省を踏まえて2点ほどアドバイスを送ります。

#### 1. 国立公園を訪れ、レンジャーの話を聞こう！

私はしなかったのですが、実際に国立公園を訪れ、レンジャーの話を聞いておくことはオススメです。自分が国立公園で働いているイメージを持ちやすいし、レンジャーの方の話を聞くことでより具体的に環境省の業務もわかり、面接でも答えやすいかもしれません。国立公園に赴く時間がなければ、OB訪問でもいいかもしれません。

## 2. TOEIC を受けよう！

これも私はしなくて加点をもらえなかったのですが、TOEIC の加点はあると心強いと思います。実際に加点を受けている人は多くいました。私の場合、TOEIC の加点がなかったので、専門試験でできる限りカバーしようと思いました。TOEIC の勉強は基礎能力試験の英語の勉強にもなるのでやっというて損はないと思います。

### **\*その他\***

公務員試験に合格するために勉強することは大切です。でも勉強ばかりでは楽しい学校生活を過ごすことはできないと思います。研究に没頭したり、アルバイトしたり、民間企業の就活をしたり、旅行に行ったり、今しかできないことを全力で楽しんでほしいと思います。たまには息抜きをしながらメリハリをつけて勉強に取り組んでください。色々な経験をして充実した学校生活を過ごしてください。

この「内定者の声」がみなさんの参考になれば幸いです。ぜひ最後まであきらめないでがんばってください。

**\*スケジュール\***

	2016年	2017年
1月	卒研要旨提出	本格的に公務員試験の勉強を始める
2月	卒研発表	就活のイベントに参加 業界研究・企業研究
3月	卒業式	民間企業の就活開始 ESをひたすら書く
4月	大学院入学	民間企業の就活 過去問を解き始める 30日：1次試験
5月	大学院の授業	民間企業の就活 12日：合格発表 23日：1次合格者向け説明会に参加 28日：2次試験
6月	大学院の授業 学内の研究計画発表	民間企業の就活 14日：人物試験・政策討議試験 30日：最終合格発表
7月	大学院のテスト期間	5-19日：官庁訪問
8月	沖縄旅行	修士研究（夏の調査）
9月	北海道で実習	埼玉県庁の採用面接
10月	何していたかあまり覚えてない	シンポジウムで発表 台湾旅行
11月	〃	修士研究の中間発表
12月	民間企業のインターンシップに参加	修士研究が忙しい 駅伝大会に参加 環境省の採用面接

# 内定者ってどんな人たち？

## 同期の第一印象

親しみやすそう

社交的かつ真面目そう

ものごとへのバランス感覚がよさそう

院卒多い

優しい

自分のやりたいことをしっかり持って、それに邁進している

お互いの話を聞きながら意見をやり取りできる

全国津々浦々

運動神経良さそう

人生楽しんでる感じ

バックグラウンドが多様

元気でひょうきんでおだやか

## 趣味

### アクティブ系

フットサル、ダイビング、スキー、バドミントン、ランニング、登山、変化球研究

### 文化系

読書、マジック、工作、映画、水たばこ、欧州サッカー観戦、  
ハリーポッター、乃木坂と欅坂、飲み会

### 巡り系

旅行、バードウォッチング、バンディング、写真、おいしいご飯屋探し、  
犬・ねこと戯れること、温泉

## 失敗エピソード集

東京で道に迷ったけど東京の人は全然道をおしえてくれなかった

2次試験（筆記）の場所を間違え、予約していた飛行機をキャンセル。2万円弱無駄にした

官庁訪問のブース面接で、両親によく連れて行ってもらっていた山の話を披露していたのだが、そこが国立公園であることを失念しており、「実家の近所には国立公園がなかったのですが、そのあたりの国立公園にはあまり行ったことがない」と言い放ってしまったこと。

「～は国立公園ですよ。」と教えて頂きました・・・。

緑の紙の下部分（役所から確認をもらう部分）を破いてしまったこと。（HP上から入手できるのですが、提出の際にわかるためあとで響くのではないかとドキドキでした。）

試験の昼休み中に試し受験をしていた大学の先輩に捕まってしまう、  
午後の試験対策ができなかった

記述問題で手がつた

2次の人物試験の時、駅から会場まで道に迷い、遅刻しかけた

面接カードの写真の大きさが面接を受けた他省庁と異なっていることに気づかず、前日夜に写真プリントの店に駆け込んだ

官庁訪問の予約をフライングしてしまった

1次試験に落ちたものだと思って答え合わせをしなかったのが、  
いまだに自分の点数が分からない

人物試験で、本来持って帰ってくるべき道順が書いてあるプリントを  
面接官に渡してしまい、面接官を困らせてしまった

もともと字が汚いため丁寧に面接カードを書こうとしていたが、ミスを何回も起こし結局深夜3時に完成したこと。（前日までには完成させておくべきでした。）

# 環境省の印象

## 環境省のイメージ

ただ自然を相手にするだけでなく、人と人とのつながりを大事にしている

職場が小さく仕事が多様な分、一人一人の責任が大きい

距離感がとても近い

それぞれの個性がすごい

協調性がある一方で、個々人の対応力が高い

自然を守るだけでなく、どう活用していくかを真剣に考えている

環境という切り口から人間の生活を考える省

環境保全の最後の砦

やわらかい人が多い

自然保全への熱い思いを持っている

## 職員の方々の印象深い言葉

「一部の自然を使うことで知ってもらい、全体を守っていく」

「地域の人と同じ方向を向いて良くなっていくのを

一緒に感じて行ける時こそ一番のやりがいだ」

「自分の専門ではなくとも環境省の代表としてベストを尽くす」

「現場で見たこと行ったことは後々生きてくる」

「よく遊んで来て下さい」(1次試験後の合同説明会で言っていた)

「調整が腕の見せ所」

「「守れ」と叫ぶだけでは変わらない」

「環境省はベンチャー企業」

「漁についていくこともよくあったね」

「住民とひざを突き合わせて辛抱強く話すことが大事。

上からものをいってはだれもついてこない」

「現場で得た経験を国の制度に還元できるのが醍醐味」